

令和6年度

教育方針

～「丹波篠山の教育」説明原稿～

令和6年2月15日

丹波篠山市教育委員会

令和6年度の教育行政に取り組む所信を示し、議員の皆様をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

本市の教育は、「第3期丹波篠山市教育振興基本計画」に定めています「5つの施策の基本方向」に基づき取り組んでいます。

基本的な考え方としては、変化の激しい予測の困難な時代に、主体的に人生を切り拓き、人生で出会う様々な問題に積極的に立ち向かい、よりよい解決を図って人生を生き抜いていく力の育成と、人生100年時代を心豊かに多様な人々と協働しながら、しあわせ多き人生を送る環境づくりや施策展開を図っていきます。

そのため、ICT環境の活用や少人数によるきめ細かな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動を通じた「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に引き続き取り組んでいきます。さらに、丹波篠山の特性を活かして、豊富な「自然体験」（農業体験や川の生き物調査等）や「地域活動体験」（祭りや地域行事への参加等）を大事にする「令和の丹波篠山型（学校）教育」を一層発展させ、市内外への発信に努めます。また、少人数を活かしたきめ細かな指導で、一人ひとりの資質を伸ばし、子どもの困りごとに寄り添い、「誰一人取り残さない」教育の実現をめざします。

学校教育に加えて幼児教育や社会教育、芸術・文化・スポーツ等あらゆる分野において、心身ともに健康で社会的にも良好な多面的幸福が持続する状態「ウェルビーイング（Well-being）」の実現を目標に、基本的な生活習慣づくり「眠育、食育、遊び」、ICTの有効活用、自分らしく生きるキャリアプラン、インクルーシブ教育、コミュニティスクール、ふるさと教育、スポーツ・文化・芸術の振興、文化財の保全活用等の施策を展開すると共に、個人のウェルビーイング（幸福）と社会のウェルビーイング（幸福）が相互に循環して高め合う「助け合い・つながり合う」共生社会の実現をめざします。

具体的な令和6年度の教育施策については、配布しています「丹波篠山の教育」により説明いたします。

3 ページ

施策の基本方向1 子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

1-1 “子育ていちばん”に向けて

「朝日とともに目覚め、四季を感じながら、夢中になって遊ぶ ささやまっ子」の育成に向け、子どもたちの豊かな感性を磨き、健全な育成を図ります。

子育て家庭のニーズに応じた幼児期の教育・保育環境整備として、今田幼稚園・今田保育園を統合、令和6年7月に、こんだ認定こども園を開園します。また、城東保育園及びかやのみ幼稚園舎の老朽化や地域からの要望を踏まえ、令和8年度中の開園をめざし、（仮称）城東認定こども園の新築整備に取り組みます。

また、待機児童対策として遠距離通所に係る補助を実施します。さらに、保育士人材等を確保するため、保育現場で働きたい人を対象に「保育・教育フェア」及び「園見学バスツアー」を実施するとともに、保育士資格等の取得に係る受講料等を助成します。

また、第3期丹波篠山市子ども・子育て支援事業計画を策定します。さらに、預かり保育施設・こどものおしる開設から3年が経過するにあたり、改めて、篠山・たまみず・岡野幼稚園区における保育・教育のあり方についての検討を始めます。

5 ページ 1-2 子どもの根っこを育てる環境づくり

「眠育、食育、あそび」を総合的に推進する「ふた葉プロジェクト」を展開し、家庭と連携した子育て環境の確立に継続して取り組みます。社会情勢に伴う物価高騰により不足する経費については、引き続き、園給食の質を維持しつつ、保護者負担を増やさず公費で負担します。

8 ページ 1-3 乳幼児教育の充実

乳幼児期の子どもたちが、心豊かにたくましく生きる力を身につけるため、丹波篠山の自然を最大限に生かし、体幹や諸感覚を鍛える保育・教育に取り組みます。また、次代の丹波篠山市を担う子どもの誕生を祝うとともに、乳幼児期から豊かな感性と自然への愛着を育むため、“箱を開けた瞬間から、丹波篠山で育った木のいい香りに包まれる”丹波篠山産材を使った積み木セット「丹波篠山 森からのおくりもの」を誕生祝い品としてプレゼントする取組を始めます。

10 ページ 1-4 子ども・子育て支援の体制づくり

地域社会が保護者に寄り添い、子ども及び親自身の成長に喜びや生きがいを感じる体制づくりを進めます。加えて、子育てにおける保護者の心理的負担を軽減するとともに、子育ての楽しさを実感できるように取り組みます。そのために、幼稚園預かり保育の充実や子育てふれあいセンターの運営、ファミリーサポートセンターの運営支援など、様々な施設や事業を通じて、保護者同士や地域等が「つながる」場を提供する取組をさらに進めます。また、病気時及び病気回復期の子どもを保育することにより、子育てと就労の両立支援を図るため、小嶋医院に委託し、病児保育事業を実施します。

市が取り組んでいる子育て支援施策への助言や子育て支援団体などからの相談に応じる「丹波篠山市子育て支援アドバイザー」を新たに設置し、市民や子育て支援団体とともに、子育ていちばんの取組を充実していきます。さらに、市内の子育て支援団体と連携し、遊びを通じて親子の絆を深める機会を提供するとともに、丹波篠山の子育ていちばんの取組を発信する「(仮称)丹波篠山市子育て応援・親子あそびフェスティバル」を開催します。

15ページ

施策の基本方向2 生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進

2-1 確かな学力の確立

劇的に変化する社会において、子どもたちが豊かな人生を切り拓き、社会の作り手となることができるように、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。

学力の確立と向上のため、「全国学力・学習状況調査」及び「丹波篠山市学力・生活習慣状況調査」を継続実施し、生活実態や学習状況等を適切に把握します。その結果も踏まえ、学力向上プロジェクト事業や主体的な学習習慣の育成、読書活動の充実、情報活用能力の育成等に取り組みます。

また、外国語指導助手（ALT）や小学校外国語活動指導補助員（JTE）との外国語を用いたふれあいや対話や、外国に関する様々な知識や経験をもつ地域人材を招いた授業を通して、外国語教育の充実や国際理解・多文化共生教育を推進します。

20ページ 2-2 豊かな心の育成

道徳教育、人権教育、ふるさと教育等の充実を図ることにより、人間形成の基盤となる豊かな情操と道徳性を培い、子どもたちが主体的に判断し、適切に行動する力を育成します。

学校においては、道徳教育の充実とともに、全ての教育活動を人権教育の視点で捉え、自分の大切さとともに他の人の大切さも認める態度や資質を育成します。また、帰国・外国人園児児童生徒の支援及びデジタル時代の市民として生きる力の育成に引き続き取り組みます。また、体験活動や環境教育、あいさつの実践、ボランティア活動などを通じ、自然体験や社会体験の一層の充実を図ります。

24ページ 2-3 健やかな体の育成

子どもたちが生涯を通じて活力をもって活動していくために、スポーツに

親しみ、継続的に運動ができる資質・能力の育成を図るとともに、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身の調和的発達を図ります。

そのために、児童生徒の体力・運動能力の把握や分析を行い、その向上に児童生徒が主体的に取り組めるよう、計画的・継続的に実践する取組を推進します。あわせて、健全な体を保つため、学校における食育の推進、及び喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育等の充実を図ります。

また、部活動においては、引き続き地域の指導者に協力を得ながら、「部活動推進員」、「部活動指導員」、「部活動支援員」を配置し、指導体制の充実と教職員の負担軽減を図るとともに、休日の部活動の段階的な地域移行に向け、サッカー、ソフトボール、剣道、ホッケー（男女別）の4種目（5団体）をモデルケースに、生徒が主体となる仕組みづくりを検討します。

26ページ 2-4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育成するキャリア教育を推進します。

また、子どもたち一人一人が生涯を見据えて、学ぶ意欲や目的を見出し、充実した人生を送るための基盤となる能力について、校種間のつながりを重視し、意図的・継続的に育成を図るため、引き続き小中連携心のサポート事業やスクールブリッジ事業を推進します。

28ページ 2-5 特別支援教育の充実

共生社会の実現に向けて、すべての学校園や学級に発達障害を含めた障がいのある子どもたちが在籍することを前提に、一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育的支援を行います。

特別支援教育のセンター的な役割を担う学校として位置づけている篠山養

護学校と、各保育園・幼稚園・こども園・学校及び関係諸機関との連携を強化します。篠山養護学校内に設置した早期発達支援室では、教育支援委員会、発達障害児等支援連絡会議及び児童発達支援センター等と連携を図りながら、発達障害及び知的障害のある幼児に対し、適切な早期支援を行い、個々の成長発達及び円滑な就学期への移行を促します。

また、一人一人に応じた教育支援を行うため、個別の教育支援計画（サポートファイル）を保護者とともに作成し、保幼小、小中、中高の学校園間で確実に引き継ぎ、情報を共有することで、一貫した指導・支援を行います。

さらに、篠山養護学校及び市内学校園に在籍する医療的ケア対象幼児児童生徒が安全・安心に学校園での生活を送れるよう体制構築に努め、子どもたちの将来の自立や社会参加のために必要な力が育めるよう取り組みます。

3 2 ページ

施策の基本方向3 子どもの学びを支える環境づくりの推進

3-1 安全安心で質の高い学習環境の整備

子どもたちが安心して学校生活を送るために、安全で質の高い学習環境の整備を進めます。

すべての学校園で「学校園安全計画」の見直しや「学校園安全管理マニュアル」等を活用した訓練や研修の実施、定期的な施設の安全点検等を通じ、安全で安心な学校園づくりに取り組みます。また、自然災害や交通事故、犯罪などから子どもたちを守るため、家庭・地域・関係機関と連携しながら安全教育を継続的・計画的に実施し、訓練を通して実践力を向上させます。

また、令和6年度には城東小学校区のスクールバス1台を更新します。

次に、市内小学校のプール老朽化にともない、市施設の通年利用できる温水プールを活用した事業を拡充します。また、令和6年度は西紀中学校及び多紀小学校の改修工事を行うとともに、丹波篠山産木材を使用した椅子の公立保育園・こども園への導入を開始します。

その他、GIGA スクール構想における学びの充実に向け、児童生徒一人一台

パソコンの環境における ICT の効果的な活用を一層促進します。

36ページ 3-2 地域とともにある学校づくり

子どもたちが地域の中で豊かな経験と多様な学びができるように、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりを支援し、学校や園・家庭・地域が連携・協働した社会総掛かりの教育を推進します。

そのため、学校や園、保護者、地域住民等が熟議と協働を通して、学校や園、地域の課題を共有し、共通の目標・ビジョンを持って、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校園づくり」に取り組みます。その中で、引き続き、幼稚園、認定こども園にも、順次、学校運営協議会制度を導入します。また、オープンスクールの充実等、引き続き開かれた学校園づくりを推進します。

さらに、地域住民の参画を得て、引き続き「放課後子ども教室」や「通学合宿」、「トライしよう DAY」に取り組み、豊かな人間性や社会性を育むとともに、地域の教育力の向上をめざします。

39ページ 3-3 家庭の教育力の向上

家庭、学校、地域が一体となり、次世代を担う子どもたちの健全育成を共に考える機会や、子育てをする親が必要な知識を学び、ともに助け合い、仲間づくりができるよう、親子の絆プログラム事業を実施する等、安心して子育てができる環境づくりに向けた情報交換・仲間づくりの機会を提供します。

40ページ 3-4 教職員の資質能力の向上

変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちを育成していくためには、教職員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ、状況に応じて求められる資質能力を高めていく必要があります。様々な教育課題に適切に対応するため、キャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修計画を定めた研修や人権・同和教育に係る研修等を実施し、実践的指導力の向上を図ります。

あわせて、教職員が心身ともに健康を保ちながら、児童生徒一人一人と向き合える働きやすい職場づくりを進めるため、教職員のメンタルヘルス対策を推進するとともに、業務の効率化と負担軽減を図り、勤務時間の適正化を進めます。令和6年度は、教員業務支援員（スクールサポートスタッフ）を増員、学校に配置します。

いじめ問題については、学校、家庭、地域が一体となって、未然防止・早期発見・早期対応に取り組めます。あわせて、組織的な生徒指導体制の充実とともに、児童生徒の悩み、心の中の課題を受け止め、児童生徒や保護者、教職員等を支える相談体制の充実を図ります。

また、不登校児童生徒に対しては、「魅力あるよりよい学校づくり」を軸とした居場所づくりの充実に努めるとともに、小さな心のSOSを見逃さず、関係機関や心の専門家と連携した「チーム学校」で支援し、不登校の未然防止、早期対応に努めます。令和6年度は、学校内に学習支援や生活支援を行う「校内サポートルーム」を増設するとともに、市内の民間通所施設（フリースクール）と連携を図り、一定の条件のもと、モデル事業として財政的な支援を行います。

「教育研究所」においては、「未来の丹波篠山市を支える教育の新しい価値の創造」をめざして、学校園教育を一層充実させ、一人一人の教育関係職員の資質向上を図るとともに、「確かな学力」の向上をめざして、子どもたちの資質・能力の育成を基盤とした教育活動を展開できるよう調査・研究と研修を推進します。

44ページ 3-5 保幼小中高大の連携

保育園、幼稚園、こども園から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校や大学などの移行においては、学びと育ちの連続性を重視し、校種間の教職員等による情報交換を行うなど連携を強化し、発達段階に応じたキャリア形成を支援します。また、市内学校園と高校との連携に取り組めます。

45ページ

施策の基本方向4 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

4-1 主体的に生きるための学びと場の充実

「人生100年時代」を見据え、市民一人一人が生涯を通じて生きがいを持って様々な学びの機会を得ることや、社会の一員として必要な学びに取り組み、自らが暮らす地域の課題を協働して解決していくために、ライフステージに応じた学習機会の創出に努めます。

図書館では、「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」に基づき、あらゆる世代に応じた事業を推進します。令和6年度は、「第3次丹波篠山市子ども読書活動推進計画」の策定に取り組みます。学校園との連携を強化し、学校での読書活動や学校図書館の支援を行うとともに、引き続き市民センター図書コーナーと配本所運営の充実に取り組み、市内3高校生とともに、中学生・高校生の読書活動推進や安心できる心の居場所づくりの充実を進めます。

また、「障がい者社会学級の運営支援」や「外国人住民の学習支援」、「高齢者大学の充実」、「視聴覚機器の活用支援」等を行い、さまざまな学びの機会を提供します。

丹波篠山市史編さん事業においては、基本方針に基づき、専門委員会、神戸大学等と連携し、調査研究に取り組むとともに、新たに地域編部会を設置し、市民とともに編さん作業を進めます。編さん体制のさらなる整備及び作業から資料保管までを一体的に行うため、市史編さん室の事務所及び資料保管庫を中央図書館から西紀支所に移転します。

51ページ 4-2 スポーツの推進

スポーツを通じて楽しさや感動を分かち合い、一人一人が健康で、いきいきと暮らす社会の実現に向け、スポーツ団体と連携・協働したスポーツ環境の整備・充実に取り組みます。

市民にスポーツ活動の機会を提供するため、スポーツ協会、スポーツクラブ21及び各種スポーツ団体への支援を行います。

また、丹波篠山市スポーツ振興官の実績、経験を踏まえ野球・ソフトボールを中心とした各競技種目のスポーツ指導者を育成するとともに、市内の子どもたちだけでなく大人も元気になる取組を推進します。また、トップアスリートとのふれあいを通じて、子どもたちに夢と希望を与える「TAMBASASAYAMA ライジングスター育成事業」に取り組みます。令和6年度は、日本トップリーグ連携機構主催の SOMPO ボールゲームフェスタ 2024in 丹波篠山を開催するとともに、プロバスケットボールの神戸ストークス、プロサッカーのヴィッセル神戸と連携し、スポーツ教室を実施します。

引き続き丹波篠山 ABC マラソンを通して健康で活力あるまちづくりを推進するとともに、丹波篠山総合スポーツセンター、西紀運動公園を活用し、市民の健康増進を図ります。

5 4 ページ 4-3 文化財と町並みの保存と活用

歴史文化を活かしたまちづくりをさらに推進するため、活性化の核となる国指定の文化財や伝統的建造物群保存地区等の保存と活用を進めながら、地域住民主体の取組を継続して推進します。

国認定の「文化財保存活用地域計画」に基づき、歴史資産を活かしたまちづくりを推進します。また、史跡篠山城跡では「篠山城跡整備基本計画」に基づき、石垣の保存修理を実施します。史跡八上城跡では、登山道の維持管理及び整備を行い、地域と連携しながら保存活用計画の策定を進めます。

また、重要伝統的建造物群保存地区である篠山地区と福住地区における町並みの保存と活用に引き続き取り組みます。令和6年度は、11月に篠山地区選定20周年記念フォーラムを開催します。

また、国指定重要文化財「春日神社能舞台」修理工事を完了後の9月に、篠山春日能を実施します。

新たに、陶の郷を中核とした丹波焼文化観光推進事業にかかる文化学術研究事業を実施し、歴史的資源として丹波焼窯跡群の価値づけ及び保存と活用を図ります。

56ページ 4-4 文化・芸術の振興

篠山城大書院、歴史美術館、青山歴史村、武家屋敷安間家史料館の歴史文化施設4館や田園交響ホールの特徴を生かし、丹波篠山市の歴史文化・芸術を発信していきます。

丹波篠山市展では、市内外からの優れた作品を展示することで、市民の創作活動への意欲を高め、鑑賞機会の提供とし、芸術文化の振興を図ります。令和6年度は第20回目を迎えることから、記念リーフレットの作成等、節目の回にふさわしい取組を実施します。

田園交響ホールでは、文化芸術の鑑賞や発表の場とともに、市民みんなが「感動」できる拠点として、市民のニーズに沿った魅力ある優れた公演を実施します。施設の整備として、照明設備の更新を進めます。

59ページ 4-5 自然遺産に学ぶ教育の充実

地域資源の一つである篠山層群を活用し、学校教育・社会教育の連携を積極的に行いながら、学習機会の提供・充実を図ります。

丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想に基づき、篠山層群及び脊椎動物化石の保護・活用を推進します。太古の生きもの館を体験学習の拠点とし、篠山層群及び脊椎動物に関する化石の展示や露頭の展示を行います。

また、篠山層群や化石を取り扱うことにより、丹波篠山の自然や理科への子どもたちの興味・関心を高めるため、化石発掘体験イベントや市内全小学校を対象とした篠山層群学習プログラムを実施します。

60ページ

施策の基本方向5 郷土を愛し誇りに思う人材育成の推進

5-1 ふるさと丹波篠山を愛する心の育成

歴史的・文化的な共同体としての郷土を心から大切に思い、郷土の発展を願い、それに寄与する姿勢を身に付けるよう取り組みます。

学校教育では、地域との連携により、児童生徒が伝統、文化、自然、産業、

食文化等を学ぶことや、ボランティア活動や地域の行事に参加することを通じて、ふるさとへの誇りと愛着心を育む「ふるさと教育」を推進します。

また、公民館事業では、伝統文化の魅力を紹介する「丹波ささやま市民文化講座」や点在する史跡等をめぐる「丹波ささやまおもしろゼミナール」、古文書に親しみながら歴史を学ぶ「古文書講座」、食文化を伝承・創造する人材を育成する郷土味学講座等を実施します。

63ページ 5-2 学校給食の充実と食育の推進

学校給食献立の充実を図り、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるため、生きた教材である学校給食を活用した食育推進を継続的に取り組みます。また、社会情勢に伴う物価高騰により、現行給食費では不足する経費については、保護者負担を増やさず公費で負担し、学校給食の質を維持して提供し、子育て支援を図ります。

主食となる米飯には、丹波篠山産コシヒカリの中でも生き物や自然環境にやさしい栽培方法で作られた「農都のめぐみ米」を使用します。加えて、地元野菜の安定的な使用及び地元産食材の活用率向上を図るとともに、地元産の有機栽培野菜もできる限り取り入れます。また、引き続き丹波篠山らしい特色ある献立づくりの充実に取り組みます。

全国学校給食甲子園での献立部門2年連続入賞の日本一の給食献立を維持できるよう、関係機関、団体と協力して取り組みます。また、ホームページ等を通じて、丹波篠山市の学校給食の魅力在全国に発信するとともに、学校園等で地元食材の豊富さと栄養バランスを織り交ぜた食育授業を実施します。

以上、教育委員会では「しあわせ多きふるさと丹波篠山を担う」とともに「一人一人が光り輝き、生きがいをめざす」の理念に基づき、「自らの夢や志を持ち、自ら学び考えて行動し、明日の丹波篠山や世界を担う人財」の育成に向けた教育に取り組んでまいります。